

平成17年度

## 自然委員会実施報告

委員 井口 時男、横内 正、小松 猛  
曾根原正人、渡辺千鶴子、等々力由美子  
結解武宏 赤羽 良文

### 1 研究テーマ

身近な生物教材のデータベース作成 「水辺の生物」

#### テーマ設定の趣旨

身近なところにある自然として、河原は行きやすさ・児童生徒の興味関心といった点で注目される場所である。そこで、河原に生息する生物（主に植物）を観察教材として活用できるように情報を提供する。

### 2 活動内容

#### (1) 経過

3年前より、身近なところにある自然を観察教材として活用しやすくするために、資料の収集と観察マップを作成する活動を行ってきた。一昨年度は「水生生物の収集・観察マップ」を作成した。昨年度は、「河原の生物の調査」を、植物を対象として行った。梓川の河原をフィールドにして、ケショウヤナギを含めたヤナギの群落やその他の植物が環境と関連しあっている様子を見分けている様子を調査した。

今年度は昨年度に引き続き、河原の植物を調査した。梓川における植物と環境の関わりを詳しく調べるとともに、最近話題になっている、外来植物の分布調査も行った。

#### (2) 内容

第1回	6月10日（金）	本年度の計画 調査方法・収集する情報についての検討
第2回	7月11日（月）	調査方法の研修会。（鎖川河畔）
第3回	8月17日（木）	倭橋上流付近の現地調査

植生断面図の作成、ハリエンジュ・アレチウリの分布調査。

(9月～10月：各委員によるハリエンジュ・アレチウリの分布調査)

第4回 10月24日(月) 調査のデータ処理と原稿分担

第5回 11月28日(月) 仕事の進捗状況の確認と情報交換  
まとめの形式の説明

第6回 1月23日(月) 本年度の活動のまとめ  
※委員への報告書配布は3月になる予定

### 3 反省と来年度への課題

- (1) 6回の委員会を通して、自然観察の手法や植物の同定法などを委員相互で深めあい、自己研修の場とすることができた。今年度は、特にメッシュに分布する特定の種の分布状況調査という新しい内容があり、充実することができた。
- (2) 今年度は報告書を小冊子にまとめて委員にのみ配布する。委員が窓口になって、情報を一般の先生方にも広げていく。
- (3) 河原の調査は、松本市内を流れる川でどこでも実施出来るので、更に調査範囲を広げて、来年も継続して行いたい。特にアレチウリ・ハリエンジュの調査は、他の河川でも行いたい。また、梓川でのアレチウリの分布の拡大も監視したい。
- (4) 委員が個人的に持っている情報も何らかの形でまとめたら、より広がりのある資料作成につながると思われる。今後、そのような方向も

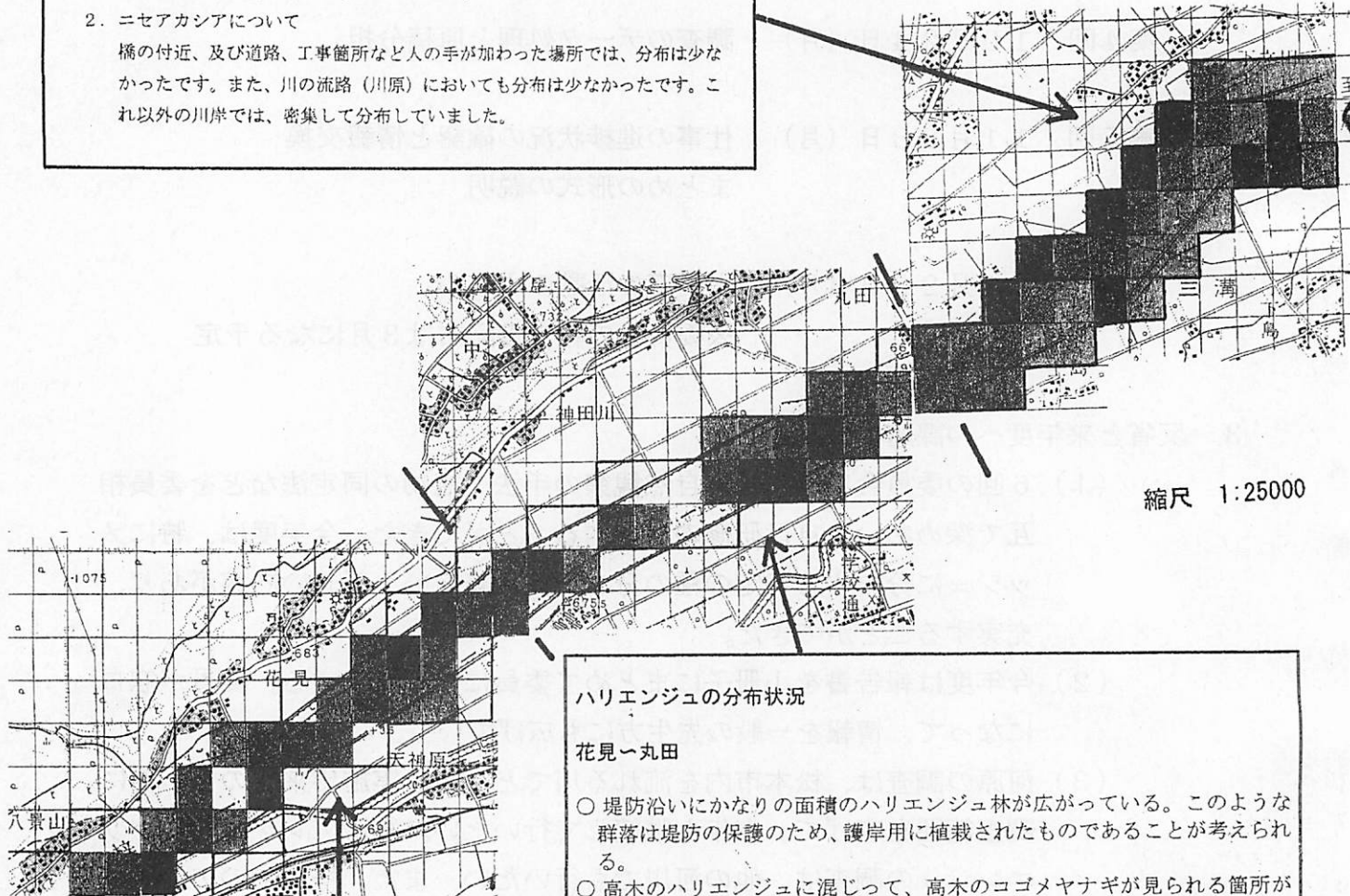
(委員長 井口時男 文責 横内 正)

# 図1-1 梓川におけるハリエンジュの分布①

各メッシュに生育している種の、被度の合計面積が梓全体の80%以上を5、60~80%を4、40~60%を3、20~40%を2、20%以下を1として地図上に記入した。

梓川（梓川橋～下島橋）のアレチウリ、ニセアカシア分布調査（9/3）結果  
並柳小学校 赤羽良文

1. アレチウリについて  
この時点で、生息は確認できませんでした。
2. ニセアカシアについて  
橋の付近、及び道路、工事箇所など人の手が加わった場所では、分布は少なかったです。また、川の流路（川原）においても分布は少なかったです。これ以外の川岸では、密集して分布していました。



縮尺 1:25000

## ハリエンジュの分布状況

### 八景山～花見

- 八景山付近には大木になったケショウヤナギの大きな群落がある。ハリエンジュはケショウヤナギのある箇所では優占していない。また、コゴメヤナギが見られる群落でもハリエンジュの優占は見られない。
  - 一方、堤防付近からかなりの面積にかけてハリエンジュが優占する箇所も見られる。このような箇所は護岸用に植栽されたか、ヤナギの伐採後に入り込んだ可能性がある。
  - 河川敷の中心付近では、樹高の低いハリエンジュが見られる。そのような場所では、被度も低く、ヤナギなど他の木本との混成した群落を形成している。
- (担当：横内 正)

## ハリエンジュの分布状況

### 花見～丸田

- 堤防沿いにかかなりの面積のハリエンジュ林が広がっている。このような群落は堤防の保護のため、護岸用に植栽されたものであることが考えられる。
  - 高木のハリエンジュに混じって、高木のコゴメヤナギが見られる箇所がある。コゴメヤナギは、自然堤防上の比較的安定した場所で巨木になる種で、ハリエンジュがニッチを優占していない所では、コゴメヤナギが優占するものと思われる。
  - 護岸工事直後の河川敷が神田川南にあり、ケショウヤナギの優占が見られる。同様な場所で、ハリエンジュも同時に入り込んでいる場所もあることから、先駆植生としてのケショウヤナギの分布地が脅かされる可能性があることが考えられる。
- (担当：横内 正)

## 図1-2 梓川におけるハリエンジュの分布②

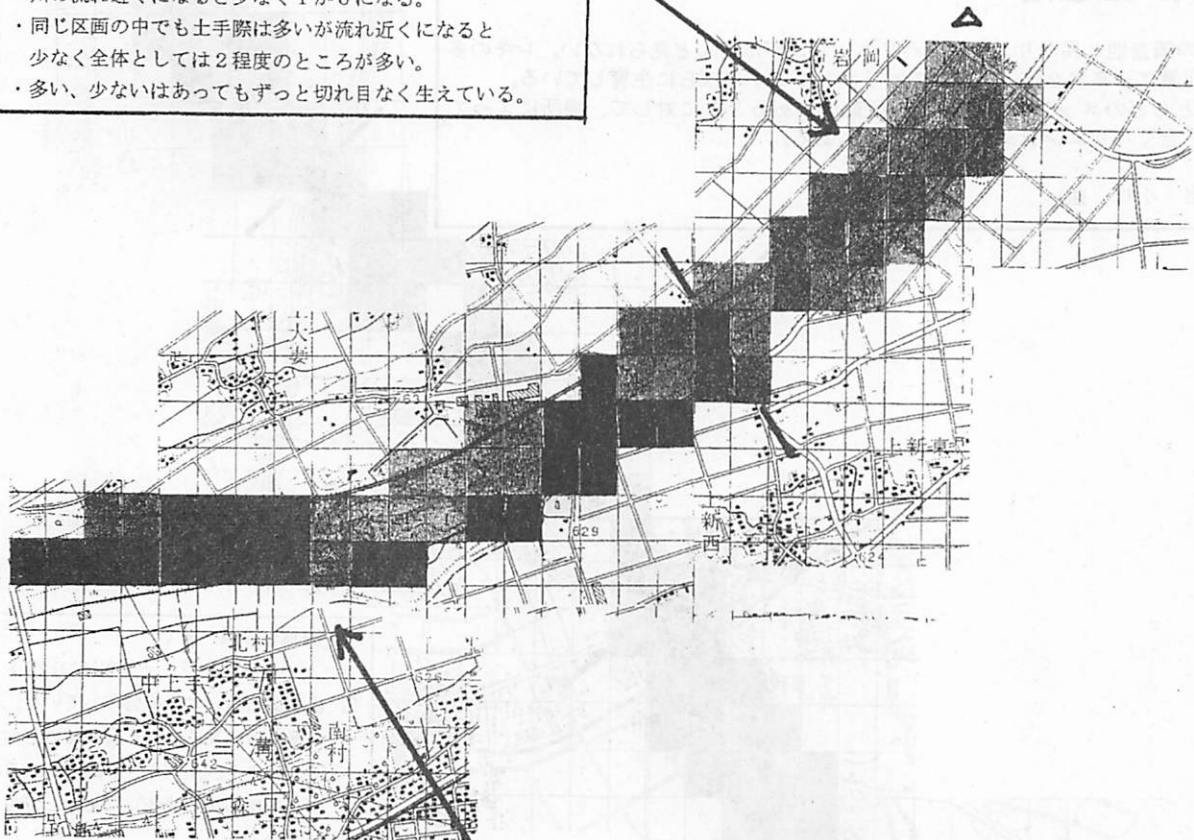
各メッシュに生育している種の、被度の合計面積が梓全体の80%以上を5、60~80%を4、40~60%を3、20~40%を2、20%以下を1として地図上に記入した。

自然委員会

渡辺

中央橋から倭橋までのアレチウリとニセアカシアの生息状況について（9月30日調査）

- ・アレチウリはなかった。
- ・ニセアカシアは河原や中洲に多数あった。
- ・河原中央部から土手までの間に多く、ほぼ2~3の面積を覆っている。
- ・川の流れ近くになると少なく1か0になる。
- ・同じ区画の中でも土手際は多いが流れ近くになると少なく全体としては2程度のところが多い。
- ・多い、少ないはあってもずっと切れ目なく生えている。



縮尺 1:25000

自然科学委員会 資料

結解

ハリエンジュ・アレチウリの生息調査

平成17年8月17日調査

調査場所 5地域

結果報告

- ・アレチウリは確認できなかった。
- ・ハリエンジュに関しては河川の土手沿いに多数見られる傾向があった。（面積範囲3）
- ・中州においては少数である。（面積範囲0~1）
- ・生息状況についてはほぼ調査場所全範囲で確認された。
- ・密集して生息している傾向が見られる。（面積範囲3）
- ・土手沿いの田畑周辺でも生息が見られつつある。（面積範囲0~1）

以上

# 図1-3 梓川におけるハリエンジュの分布③

**ハリエンジュの分布状況 (梓川橋～奈良井側合流点)**

- ・大水によってたびたび流されているためであろうか、河原のハリエンジュはいずれも幼木である。
- ・最下流域の射撃場付近はうっそうとした森になっている部分がある。

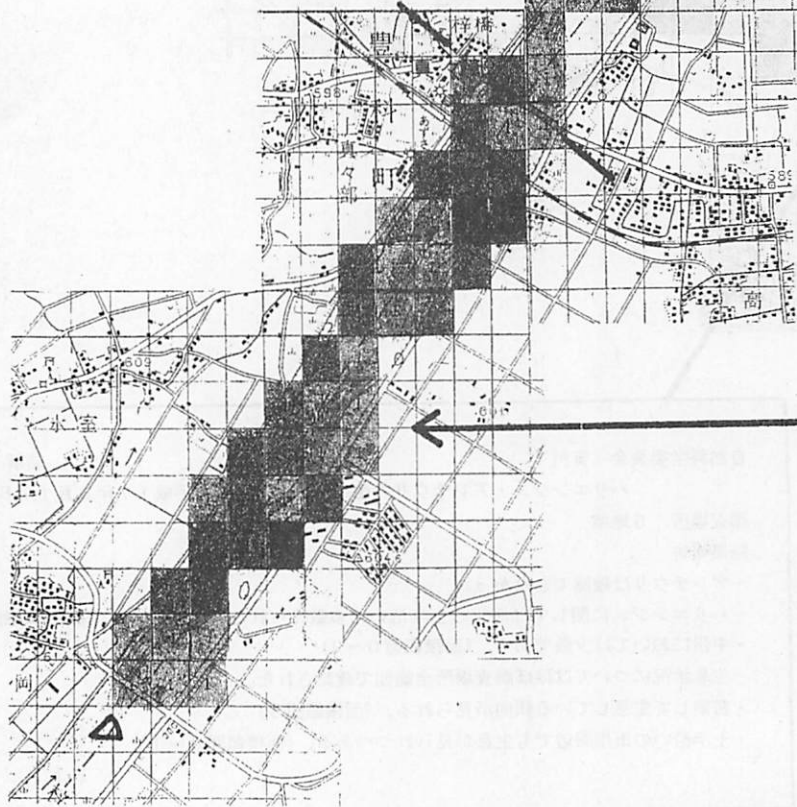
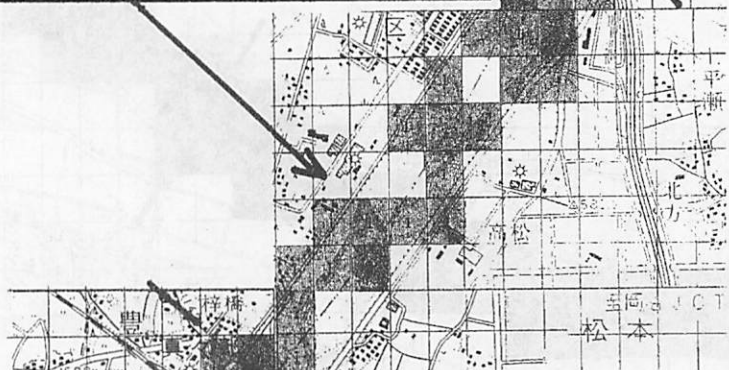
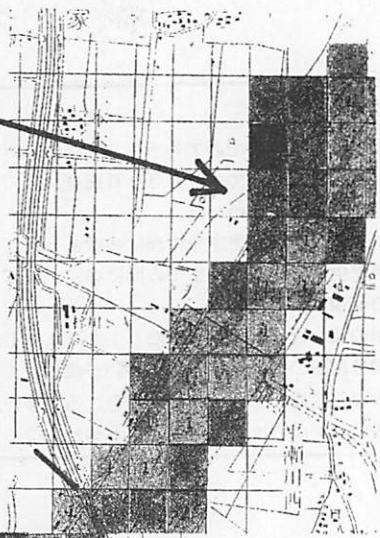
(担当：曾根原 正人)

## ハリエンジュの分布状況

### 梓橋下流～長野道梓橋

- 他の調査地と異なり、大木のハリエンジュがほとんど見られない。レキの多い河原に、高さ2～5m程度のハリエンジュがまばらに生育している。
- ほとんどのメッシュに出現する調査地もあることに対して、場所によっては、全くハリエンジュが無いところもある。

(担当：小松 猛)



**【中央橋～梓橋 までのハリエンジュノ分布について】**

- 堤防道路沿いに多く分布している。その多くは、高く大きく育っている木が多い。また、川(水)が離れている場所(川岸の広い場所)に密集して生育している。
- 中州にも見られるが、1メートル未満の低い状態。
- 堤防道路の縁(川とは反対側の土手)にも小さいがハリエンジュが育ってきている所もある。
- 水辺に近い部分はハリエンジュが見られない。
- 梓橋に近い部分の0について:  
川が岸まできている場所のためはハリエンジュが見られない。
- 中央橋に近い場所での0について:  
以前は比較的ハリエンジュが多かったが(2程度)、1月から河川の工事が始まり、道路沿い～中州にかけてすっかりなくなってしまっていた。

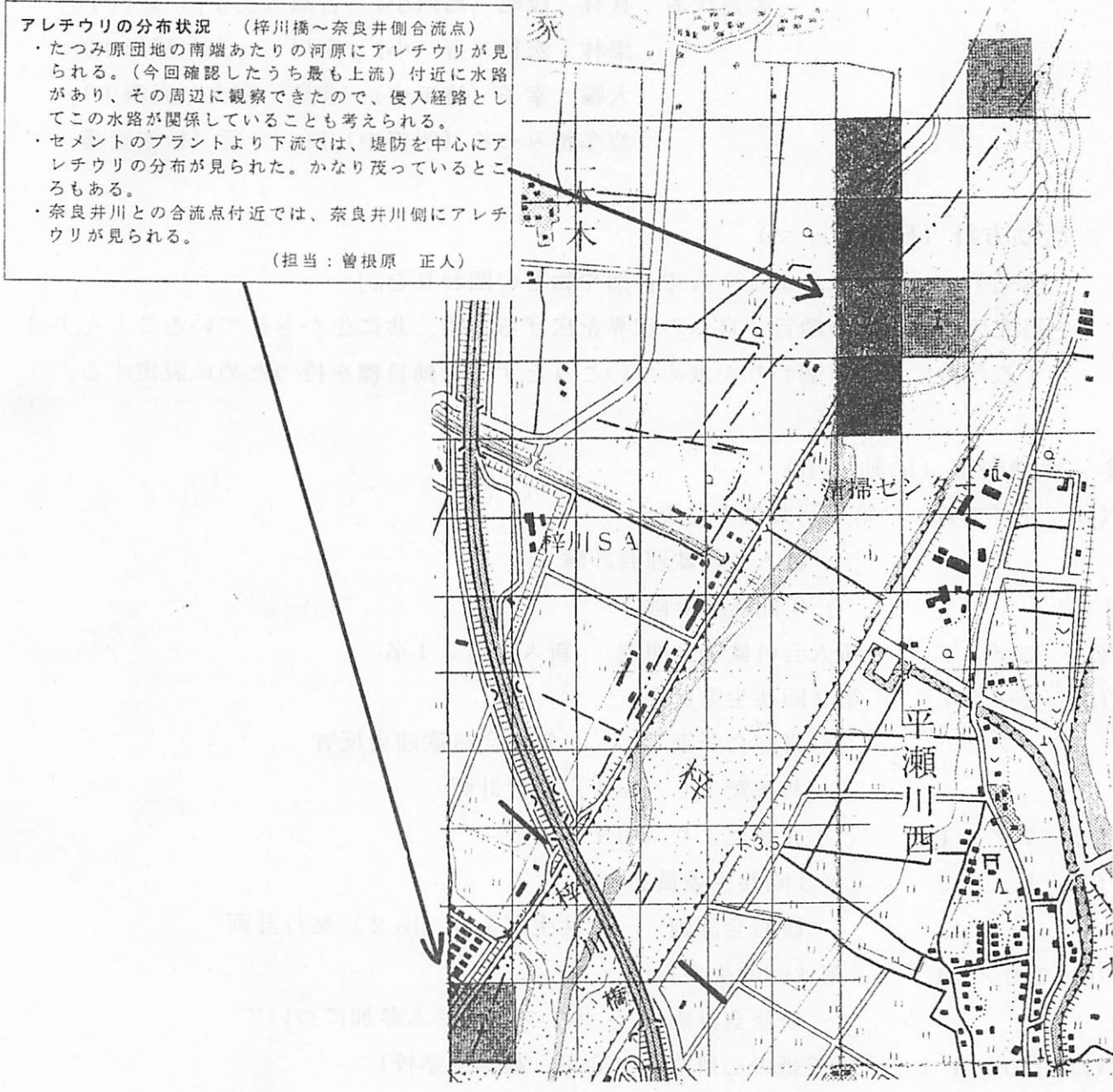
担当：等々力由美子

縮尺 1:25000



## 図2 梓川におけるアレチウリの分布

各メッシュに生育している種の、被度の合計面積が梓全体の80%以上を5、60~80%を4、40~60%を3、20~40%を2、20%以下を1として地図上に記入した。



**アレチウリの分布状況** (梓川橋～奈良井側合流点)

- ・たつみ原団地の南端あたりの河原にアレチウリが見られる。(今回確認したうち最も上流) 付近に水路があり、その周辺に観察できたので、侵入経路としてこの水路が関係していることも考えられる。
- ・セメントのプラントより下流では、堤防を中心にアレチウリの分布が見られた。かなり茂っているところもある。
- ・奈良井川との合流点付近では、奈良井川側にアレチウリが見られる。

(担当：曾根原 正人)

縮尺 1:12500

**アレチウリの分布状況**

松本市梓橋～波田町八景山

○くまなく調査を行ったが、今年度はアレチウリを確認しなかった。今の所、梓川におけるアレチウリは、奈良井川合流点上流付近の1カ所に限られていることがわかった。

(担当：小松・等々力・渡辺・結解・赤羽・横内)